

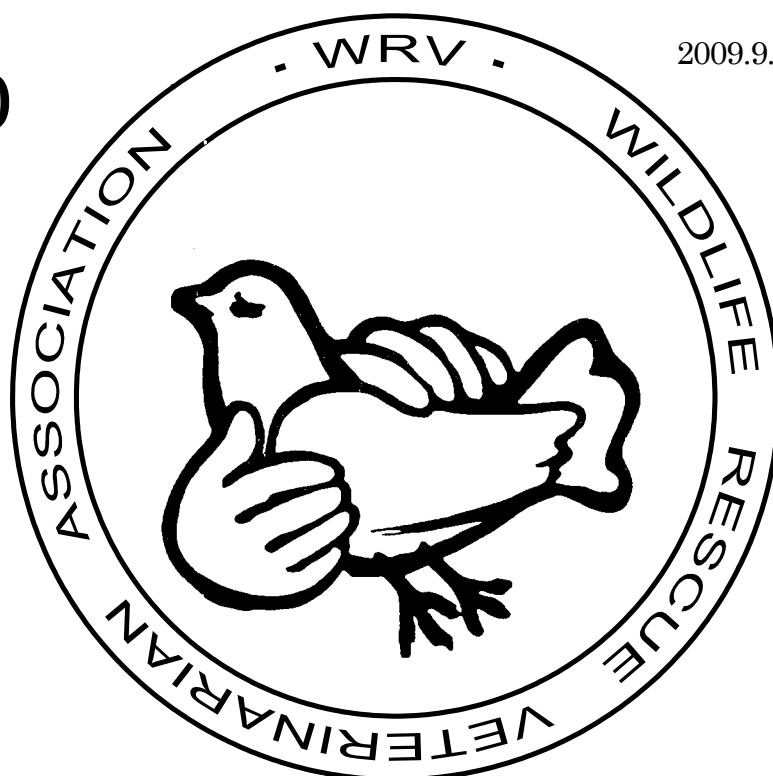
WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.70

2009.9.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.70 目次

アホウドリ智島移住計画に参加して	中津 賞・・・・・・・・・・2-6
第7回ふっさ環境フェスティバル出展報告	箕輪 多津男・・・・・・・・・・7
日本獣医生命科学大学 学生実習報告	大窪 武彦、箕輪 多津男・・・・・・8
従来の傷病鳥獣ボランティア制度と 神奈川県野生動物リハビリテーター制度の違いとは何か	皆川 康雄・・・・・・・・・・9
平成21年度油等汚染事故対策水鳥救護研修のご案内	・・・・・・・・・・10
講習会のご案内	・・・・・・・・・・11
寄付のお礼とお願い	・・・・・・・・・・11
事務局日誌	・・・・・・・・・・12

アホウドリ聳島移住計画に参加して

2009 年 3 月 26 日

WRV 大阪支部 支部長 中津 賞

急に冬に戻った様な寒さのぶり返しの中、堺を朝 4 時 30 分に出発した。約 20kg のリュックサックはさすがに重い。これから 4 月 12 日の帰阪までの、テント生活と音信不通生活に入る。衛星電話によるネット通信の確保も検討したが、今回は断念した。鳥に関する教科書を持って来ているので、パワーポイント形式で有用な情報をいつでも取り出せるようにしておきたい。また今やっている様な日記もつけていきたいので、太陽電池パネルを改造して PC だけは動くようにしたく、次男が努力してくれた。接続の仕方を何度も教えてもらったが、現地でどれだけ機能するか楽しみである。



今回の荷物の内容は、現地の気象に関する情報が気温以外皆無なので、衣類が強風や豪雨対策の為に軽装から重装備までかなりの物になってしまった。帰りは宅急便で送ればこんなに重い荷物を持たなくてすみそうだ。でもリュックサックは担ぐととても軽く感じるし、歩き易い。これはデザインと共にうまく設計されている為と感心する。8 時 30 分に品川について、浜松町まで山の手線で移動し、竹芝桟橋まで徒歩 7 分である。リュックを担ぐまではこの徒歩距離が不安であったが、新大阪までは快調に歩けているので何も心配はいらないであろう。出帆までは 1 時間あるが、9 時に乗船センターに集合するように乗船券に書いてある。特 2 等を選択した。船底で雑魚寝は疲れそうで嫌だ。出航 1 時間前に集合ということでちょうど時間に到着した竹芝桟橋の乗船待合所にはすでに多数の乗客が集合している。9 時 20 分から乗船とのことでセンター内の諸掲示物に眼を通す。伊豆七島行きがセブンアイランダーズ丸だとか、高速船が合って短時間に目的地に着けるとかいろいろ情報を得る。しかし小笠原父島への高速船は計画の段階で中止になったということは聞いていた。いつでも定刻には遅れるヒトがいるように、今回も 10 時になっても数人があわてて乗り込んで来た。結局 10 分遅れで桟橋を離れた。東京湾から見るお台場。それをつなぐ高架道路のユリカモメラインがきれいな曲線を描いている。羽田飛行場からの離陸機が滑走開始からすぐ近くで見えて来た。3 分くらいの間隔で次々と上空へと上ってゆく。しばらくすると千葉とを結ぶ海底道路の中継地の海ほたるが左に見えた。今は高速

道路代も 1000 円と聞いている。特 2 等の船室は栈橋からタラップで上がったところが B デッキで、このデッキはすべて指定席である。特 2 は 2 段ベッドで、今回は予約が遅すぎて上段しか取れなかった。しかし幅は充分有り、清潔で、温度も快適だ。2 時 30 分からホエールウォッチングと小笠原の解説講座があり、解説者は聳島のアホウドリ移住計画に去年参加した旨はなされた。講演後少し情報を仕入れるべく話しかけた。3 週間滞在したようで、ずいぶん楽しかった様子であった。

太平洋に沈む夕日がきれいとのことで 5 時半過ぎくらいにはデッキにでてみたい。船はかなり高速で飛ばしていて、波も次第に高くなって大きく揺れている。歩くのに時にヨロメクくらいである。船内の自動販売機でゼロネクトを買った。小さな缶で 160 円だ。新聞をゆっくりと読みながら窓の外を眺めている。時間だけはゆっくりと流れてゆく。こんなことは滅多に無く、非日常的な生活を数十年間過ごして来たんだなあとつくづく思う。まあ言わば贅沢な時空と言える。夜間はかなり波と風があって中間地点の鳥島の通過が 30 分遅れているとの放送が有り、父島到着が 30 分遅れた。昨夜の夕日は 5 時 45 分頃地平線の雲間にあつという間に消えてしまった。朝日を見る為に 6 時 15 分に甲板に出たときには遅すぎで、かなり上がっていた。特 2 等室は快適で、長さは 190cm、幅は 70cm でゆったりしている。ただ 2 階なので出入りが少し不自由だ。帰りの席は 1 階なのでこの点は楽だろう。2 等船室を見に行ったが、駐車場の様に白い線を床材に敷いてあり、雑魚寝で窮屈そうだし寝苦しそうに見えた。

父島入港 2 時間前に 聳島、針島、仲人島、嫁島が見えた。海上からは聳島は比較的平らな島であった。父島に入港して、現地スタッフの出口さんの迎えのアホウドリの看板が見えた時は安心した。同じ船便で京都大学の大学院生の安藤さんも一緒だった。少し歩いて小祝荘に着いた。ここの 2 階が宿舎だ。出口さんと相部屋でかなり広くゆったりとしている。すぐに昼食に行くとのことで一本裏通りの波食波食と書いてパクパクという食堂で、魚フライ定食を注文。近海産のカジキマグロのフライであった。味はまずまず。安藤さんは豚の生姜焼き定食、出口さんは野菜炒め定食。3 時の買い出しまで時間があるということで、徒歩で三日月山展望台に登った。かなり急で約 1.5km を 30 分で到着、きれいな海岸線が見えた。途中道端にサンスベリアの群落が多数見られた。外来種か。山頂からは時にはクジラのジャンプも観察できるということだが今回は 10 分くらいしかいなかったのも無理かもしれない。しかし聳島通過時にはクジラのブローが見え、黒い体も数回観察できた。買い出しの為に現地スタッフの貴見さんと朱澄(アスミ)さんと合流した。アスミさんは OCA 出身で、イルカのトレーニング科を卒業して、小笠原でガイド職として活動を開始したばかりの 20 才。宿舎のすぐ近くの宿舎と同じ名前の小祝商店でダンボール 2 箱分の食糧を買い込んだ、朝食用には食パンを 8 袋、ジャム、野菜いろいろ、鶏肉、ハム等詰

め込んだ。これを宿舎まで運んだ。宿舎の自室 10 号の冷蔵庫に収容。夜食までの間に荷物を点検し、明日の船便での服装や脚元を出口さんのアドバイスで、風がかなりあるので風を通さないヤッケと脚元はギョサン(サンダルをこの地ではこう呼ぶ)が、履き脱ぎが楽で、テントの出入りが容易だとの事。早速向かいの店で、780 円で買った。翌日は6時 50 分に迎えの車が宿舎まで来てくれるのでそれまでに自分の荷物と冷蔵庫の荷物を階下に降ろしておくよう指示があった。自転車用のヤッケとズボン下、厚手の長袖シャツと自転車帽で車に乗って港に向かった。軽自動車の荷台に 3 人で荷物を抑えるという名目で、見逃してくれるだろうということにして。漁船の艀の方に乗って波しぶきを避けた。父島の最北端の兄島付近を通過中に、ザトウクジラのブローが数本観察できた。ザトウクジラの背びれは小さいのが特徴だ。嫁島がかなり前方に見える。2 時間くらいと聞いていたが 3 時間 30 分かかった。見えていてもなかなか近づいてこない印象が強かった。やっと聳島の海岸線が見え、テントがきれいに並んで張られていた。これは後で判ったことだが、ナコウド島での植栽事業の会社の従業員用とのことだった。この正面は小さな入り江になっていて、波が静かで、ここに漁船を停泊させて、ゴムボートを降ろしてこれに荷物を積み込んで、かなり離れた岬を通り過ぎた小さな砂浜に上陸をした。3 往復してすべての荷物を陸揚げした。こうした漁船による補給は6日に一回のペースで行われるが天候の関係で5日目になったり、7日目になったりと、全くの自然任せである。ボランティア用のテントはこの砂浜から300メートルほど林に入った日陰に大小 10 張りほど設営されていた。最初の仕事は午前中の給餌時に使い終わった器具を海水で洗浄することである。アホウドリの飼育失敗例は消化管の細菌感染によることが多いためで、洗浄と消毒が大切と指導を受ける。管類はきれいに中まで海水を通して洗った。これらの器具はテント内の洗浄液中に保存して、午後 5 時に再び海水で洗浄液を洗い流した後に今度はハイター中に貯蔵して消毒を完全に行う。これが終わったら夕食の支度を台所テントで行った。アカバ(アカハタ)、タマネギ、人参、春菊でみそ汁仕立てである。全員は6名で、引き継ぎ人員として原田さんがいろいろ指導してくれた。食後 2 時間くらい皆で自己紹介しながら楽しい時間を過ごした。明日は 5 時起きということで、自分のテントは原田さんと同じで、テント台がすこし頭の方が下に傾斜していたが構わずマットを膨らまし、羽毛寝袋を広げた。夜間は結構暖かかった。夜間少し雨の音が聞こえたがぬれるほどではなかった。

翌朝は朝 5 時に餌の準備に取りかかる。冷凍イカ 5kg、トビウオ 6kg, オキアミ 2kg をかごに入れて海に沈めて解凍。1 時間後に引き上げて、その場で十分に海水で洗浄。エラの内側も指を入れて洗浄。イカはぬめりを取り。外套膜の内側にもよく海水を通す。これをテントに持ち帰り、ハサミでヒレを取り去ったのち、みじん切りにした。更にフードプロセッサにかけて泥状にし、シリコンコーキング注入器で227gを秤量した。それを 3

×15本(1羽あたり3本)作り、トビウオを開いた物を半分に切って3尾ずつフクロに入れた。飼育現場まで約30分の距離をこの重い荷物をしょって出かける。大汗仕事である。出口さんが保定し、原田さんが注入、飲料水に5%海水を混ぜた物を450ml、次いで227gの物を3本、開いたトビウオを3匹分一気に経口投与。これで1羽終わり。15羽を繰り返し給餌するのに90分くらいかかる。終了すると荷物をまとめて帰路につく。距離は5kmくらいではあるが、標高差が100メートルくらいあり、こうした稜線を3カ所ける必要がある。所要時間は片道がんばって歩いて30分。溶岩で滑り易く、鳶職が使うスパイク付きの特殊な地下足袋が適しているという。亜熱帯とはいえ、気温は本土と差して変わりなく、大阪を出た時の真冬の服装が重宝した。一日だけ風の強い日があって、稜線通過時には帽子だけでなく。眼鏡が飛ばされそうになった。こんなことは始めてである。水温は20℃くらいでかなり冷たい。ある日皆で昼食後に泳いでみた。まあ30分水に入っているのがやっとだった。ジギングによるアオリイカがよく釣れ、毎夜のようにイカの刺身、イカめし、イカの入った野菜炒め等ごちそうが振る舞われた。一日のこなす仕事はこうしたものである。雨が一番の予定外で、朝から雨の時は全ての行事が中止になる。雨の中で保定すると羽毛の撥水性が失われ、かなり寒そうになる。しかし2日間の無給餌は避けるとの方針で、小雨では常に決行である。アホウドリのヒナは個性があって、給餌の順番が近づくと決まってスタコラ逃げ出すものや、全く動じず、じっと自分の巣の中で待っているものがいた。サイトは芝草が30cm程度生えているが、それ以上の背の高いものは無い。数日経過して我々の方が習熟して、要領が判ると保定や給餌をやらせてもらえた。たくさんの方々がかかわって来た大切なヒナ鳥をケガさせないようにと気を使う。保定はまず、毛布を使って目隠しをし、その毛布を広げて両翼を包み込む。馬乗りになって、体重をかけないように両脚で挟み込んで動きを制する。給餌者は頭部を保定して、開嘴し、管を胸部食道まで差し込んで予定量を順次注入する。嘴の力は強いが、血が出るほど怪我をすることは無い。こうした給餌中にクロアシアホウドリの若鳥が何をしているのか不思議そうに覗き込みにくる。納得するまで近くで我々を観察していた。体重測定は5日一回行われた。毛布で包んだヒナを籠に入れてデジタルの秤で計るのだが、浮き上がった経験が無いので、持ち上げられると不安なのかしきりに動いて、なかなか正確な体重が求められなかった。今回の新繁殖地に隣接するコアホウドリとクロアシアホウドリの繁殖サイトを体重記録の為に訪れたことがある。コアホウドリの若鳥は5羽程度集合して、盛んに集団でディスプレイの練習をしている。また眼の上方の羽毛の色はグラデーションになっていて、何か女性の化粧の見本にしたい様な見事さで、自然界の芸術としての見事さを見せてつけている。ここにはたくさんのヒナが見られた。新繁殖サイトにはデコイと共に拡声器で鳴き声も常に発せられている為か、2度ほど鳥島のアホウドリが飛来して着地した。こ

れは記録的な出来事である。私にとって今回は2週間の滞在であったが貴重な経験をさせていただいた。これからの鳥の臨床や保護活動に生かしていきたいと考えている。



「第7回ふっさ環境フェスティバル」出展報告

WRV事務局 箕輪 多津男

去る6月7日（日）に、東京都福生市内の多摩川中央公園にて、「第7回ふっさ環境フェスティバル」が開催されました。

本フェスティバルに、WRV（東京都支部）は4年連続で参加し、本年も会場内にブースを構えることができました。

当日は天候にも恵まれ、本イベントの事務局を務めておられる福生市生活環境部環境課の担当者の話によりますと、のべで3,500人程の来場者があったとのことでした。ただし、この人数は、ブースのある広場だけではなく、同時開催されていたフリーマーケット等の来場者をすべて含めたものということです。それにしても、昨年と比較して新たなブースの参加が10団体も増えたこともあり、会場内は例年になく活気に溢れていたような気がいたしました。日曜日ということもあって親子づれの姿も大変多く、特に飲食ブースや体験学習関係のブース等では、常に人が並んでいるような状況でした。

WRV（東京都支部）のブースでは、先に参加した「東京バードフェスティバル」の時と同様、立ち寄っていただいた方々に「野鳥救護クイズ」を出題いたしました。そのクイズにその場で解答してもらったところで内容の解説を行い、その解説シートに数種のパンフレットと「ヒナを拾わないで!!」ポスター、そして「野鳥救護クイズ参加賞」（緑色の紙に印刷したもの）を添え、解答いただいた一人一人の方に差し上げました。なお、クイズに答えていただいた方はのべで約40名でした。また、野生動物に関する相談についてもいくつか寄せられ、順次対応させていただきました。

このほか、ブースの前面には昨年と同様、野鳥救護や油汚染事故対応関連のパネルや写真を張り出しました。

本年は、当フェスティバルに参加した各団体のブースの内容も、バラエティに富むなど充実した様子を見せておりましたので、来年度以降の会場の盛り上がり、改めて期待されるところです。

会場までのアクセスにやや難はありますが、比較的近くにお住まいの会員や関係者の中で、まだこのフェスティバルをご覧になったことのない方々には、是非一度、会場まで足を運んでいただければと願う次第です。



写真：ふっさ環境フェスティバルの様子

「日本獣医生命科学大学獣医学科 4～6 年生対象・油汚染鳥救護特別実習」 開催報告

WRV 副会長 大窪 武彦
事務局担当 箕輪 多津男

7 月 30 日 (木)、7 月 31 日 (金) の 2 日間をかけて、標記の特別実習を開催しましたので、報告いたします。

今回の実習は、1 日目は環境省水鳥救護研修センターで、2 日目は日本獣医生命科学大学での開催となりました。

1 日目は、1 コマ目「油について」を WRV 野村理事が担当し、油の種類、性質、回収方法、防除方法、羽への影響など、相変わらず分かりやすく滑らかな講義をいただき、終了間際に羽を使った油の実験で締めくくっていただきました。2 コマ目は皆川理事による「油汚染鳥の救護法」についてでした。動画を交えた講義で、3 コマ目の洗浄実習に役立つ内容で行われました。初日の最後は、実際の水鳥を使った洗浄実習でした。講師は WRV の 5 名の理事（新妻、須田、野村、皆川、大窪）が担当し、油汚染鳥の取扱い方や鳥の採血とその検査法、洗浄法について、班ごとに分かれてじっくりと指導がなされ、非常に内容の濃い実習になりました。

2 日目は、「油汚染事故に関する法律と体制」「鳥類生態学、種について」「水鳥のビデオ上映・解説」の 3 コマを WRV 職員の箕輪が担当しました。4 コマ目は「鳥類の病理学」について、WRV の研究部長も務めている日本獣医生命科学大学の梶ヶ谷教授に担当していただきました。

全ての講義の後、質疑応答が行われ、最後に、WRV 新妻会長より、参加した学生一人一人に「修了証」が手渡され、閉会となりました。

終了後に寄せられたアンケートを見ましても、例年通り、今回参加したほとんどの学生から、講義および実習の内容に対して大変好評をいただきました。



健康診断の様子



水鳥の洗浄実習

従来の傷病鳥獣ボランティア制度と 神奈川県野生動物リハビリテーター制度の違いとは何か

WRV 副会長 皆川康雄

去る 8 月 29 日、30 日に神奈川県野生動物リハビリテーター養成講習会が行われました。今年で 5 期目になりますが、定員 30 名のところ 69 名の応募があり、お陰様で人気の講習会となっています。この 2 日間の講習会の後、3 日間の実践活動（実習）を経て、来年早々には認定される予定です。

さて、その神奈川県野生動物リハビリテーター資格認定制度は、わが国における従来のいわゆる傷病鳥獣ボランティア制度と何が違うのでしょうか？

従来の傷病鳥獣ボランティア制度は救護施設内で収容個体の世話を行う活動です。あるいはリハビリ中の個体や野生復帰不能個体を救護施設（施設がない県は行政機関）からボランティア宅で預かる制度もあります。したがって、傷病鳥獣ボランティア制度とは、救護施設のお手伝い、あるいは施設に代わって世話をする制度といえるでしょう。（図 1）

一方、神奈川県野生動物リハビリテーター資格認定制度は、WRV（神奈川支部）が養成し、資格認定を行い、認定者には県や市町村から救護活動に必要な「捕獲許可」が交付される制度です。したがって、リハビリテーター自身が、公に傷病野生動物を直接取り扱うことができ、救護施設に搬送したり、自宅で世話やリハビリをして野生復帰までできるのです。（図 2）（もちろん、救護施設内での活動も可能です）

つまり、一定のスキルをもった市民（リハビリテーター）が、野生動物が傷ついた時点から人の手から離れて野生に帰る時点（救護の最初から最後）まで、携われるわが国初の制度といえるでしょう。これが従来の傷病鳥獣ボランティア制度との大きな違いなのです。

このように、神奈川県で創設された野生動物リハビリテーター資格認定制度により、市民が直接救護活動を担えるしくみができました。現在、認定されたリハビリテーターは 120 名。このしくみを生かした救護活動が展開されるように、日々努めているところです。今後、各地でもこうしたリハビリテーター制度がつくられていくことを期待します。

図1. 従来の傷病鳥獣ボランティア制度

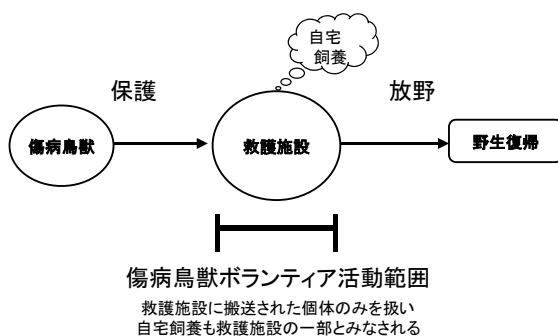
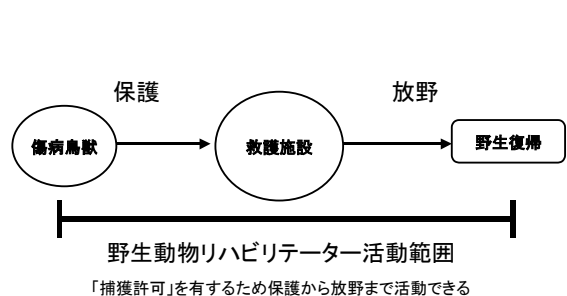


図2. 神奈川県野生動物リハビリテーター制度



平成 21 年度「油等汚染事故対策水鳥救護研修」実施案内

目的：油等汚染事故発生時に、野生鳥獣保護の観点から迅速かつ的確に対応できるよう、油等に汚染された水鳥の救護等に関する共通認識と技術を習得することを目的とする。

日程：第 1 回鳥獣保護行政担当者向け 平成 21 年 10 月 26 日（月）、27 日（火）
第 2 回現場救護リーダー向け 平成 21 年 12 月 1 日（火）、2 日（水）
第 3 回鳥獣保護行政担当者向け 平成 22 年 2 月 4 日（木）、5 日（金）

現地研修：平成 22 年 1 月 27 日（水）
＊ 現地研修では実習はありません。
＊ 開催地については選定中。

内容：以下のような事項に基づき、講義および実習形式で研修を行う。

- ① 油等汚染事故における行政の役割対応
- ② 油等汚染事故の基礎知識
- ③ 日本の油等流出事故時の情報体制
- ④ 水鳥の生態
- ⑤ 油汚染鳥の保護法・治療法
- ⑥ 油汚染鳥の洗浄法
- ⑦ その他

＊鳥獣保護行政担当者向けと現場救護リーダー向けで内容が若干異なります。

会場：環境省 水鳥救護研修センター研修室 〒191-0041 東京都日野市南平 2-35-2
TEL042-599-5050 FAX042-599-5051 HP <http://www.hinocatv.ne.jp/~oiled-wb/>

対象：国・地方自治体の鳥獣行政・防災行政担当職員、鳥獣保護センター等職員、獣医師、鳥獣保護員、動物園・水族館職員、水鳥救護に携わる関係者等

定員：1 回あたり 30 名（先着順）
＊申し込みは各開催日の 2 週間前まで。定員になり次第締め切り。

参加費：無料（参加のための交通費、宿泊費等は自己負担）

申込用紙：別紙（WRV HP からダウンロードできます。）

申込先：環境省 水鳥救護研修センター
〒191-0041 東京都日野市南平 2-35 TEL042-599-5050 FAX042-599-5051

研修運営：環境省

委託：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会（WRV）

事務局日誌 2009.6.23～2009.9.25

本部

6月23日：平成21年度水鳥救護研修センター運営連絡協議会
新妻・須田・梶山・吉見
6月26日：ニュースレターNo.69 発行 皆川
7月14日：第7回理事会
7月19～20日：日本小動物獣医師会年次大会にWRVも後援 新妻
7月30～31日：日本獣医生命科学大学特別実習 大窪・野村・皆川・新妻・須田・箕輪
8月14日：第8回理事会
9月20日：油汚染鳥救護等に関する専門獣医師等の養成 第1回講習会 新妻・箕輪
9月25日：ニュースレターNo.70 発行 皆川

東京都支部

6月7日：ふっさ環境フェスティバル ブース出展 野村・箕輪

神奈川支部

6月2日～8月31日：「ゴミに悩まされる野生動物」パネル展示（共催）
会場 理科ハウス（逗子市） 皆川
6月27日：野毛山動物園でのリハビリテーター活動 朝日新聞掲載 皆川
6月30日：リハビリテーター資格認定制度検討委員会 馬場・皆川
7月9～10日、23日、8月5～6日、9月15日：川崎市立中学校体験学習
（於：ボランティアセンター） 皆川
7月14日：リハビリテーターによる出前授業（於：川崎市立小学校） 皆川
7月19日：神奈川県自然環境保全センター見学会（リハビリテーター） 皆川
7月22日、29日、8月12日、19日、26日：
リハビリテーターによる夏休み一日体験学習（於：ボランティアセンター） 皆川
7月25日：横浜自然観察の森「家族で楽しむ自然体験」イベント協力 皆川
8月7日：神奈川県傷病鳥獣保護連絡協議会出席 皆川
8月29～30日：リハビリテーター養成講座 馬場・皆川・小松・大窪・箕輪
9月3日：リハビリテーター活動 読売新聞掲載 皆川
9月20日：川崎動物フェスティバル ブース出展 馬場・皆川
9月21日：夢見ヶ崎動物公園動物園まつり ブース出展 皆川

野生動物救護獣医師協会（ホームページ）<http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 70 2009.9.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：皆川 康雄
